

ぶらネットこまき

(古牧地区住民自治協議会広報紙)



第54号

古牧だより通算148号

男女共同参画啓発セミナー開催

6月18日古牧公民館集会室において、男女共同参画啓発セミナーを開催し、講師としてお迎えした長野県副知事の加藤さゆり先生は「女性の力で信州を元気に」のテーマで講演されました。

また、主催者の古牧住民自治協議会の湯沢会長の挨拶の中で、今まで住自協組織に女性の部員も多く参画されていましたが、今年度は組織として指揮ができる女性役員の実現が実現し、事業運営上において女性による意識改革を期待するとともに、今後も女性の事業運営参画を推進していくと挨拶がありました。

講演の主な内容は次のとおりです。

住民自治協議会の皆さんに三つのお願い

第一点は男女共同参画の必要性

まずどうして男女共同参画が必要なのか、女性の活躍が大事なのかをご理解して頂きたいのであります。

信州の地域社会、経済を活性化させていく為には女性の力なくしては成り立ちません。これは、好むと好まざるにかかわらず女性が色々な分野に参画していく、これは企業も、地域社会の活動も男女共に力を合わせて行かなければ立ち行かなくなることをご理解いただきたいと思ひます。

企業・経済なども従来と違う改革を起こして行く時に、今まで通りの役者だけで何かを考えようと思っても限りがあります。改革を



起こすとなれば、従来は参加して来なかった人達、つまり女性の参画が非常に大切であるという事でありませう。

第二点は長野県の男女共同参画の現状

私が講演を終えて会場を出たロビーなどで「家では女房がサイフを握っているのだから、男女参画なんて言わなくても実権は女房が握っている」などと男性の方によく言われますが、実際にそうでしょうか。

県外からの観光客を誘致し、持て成しをして長野県を豊かに、そして幸せにするには女性が消費の決定権を持っているのだから、女心をつかみ女性が何を望んでいるかを考える必要があります。そのためには女性の参画、女性の意見・視点を大事に取り入れれ皆で共有して行かなければなりません。そして政策を決定する時にも女性の意見・視点が反映されるようにしなければならぬと思ひます。

長野県内の実情を客観的に見ていただき、

女性が輝ける状況になっているかを皆で共有していただく、これは行政も頑張り努力しますが、行政だけではどうしても進められない大きな課題ですので、今取り組まなかったらいろいろなところに支障をきたすので、地域でも出来るところから意識を含めて、全県民の皆様のご理解を得ながら進めさせて頂きたいと思っておりますので、その課題、問題の共有化をお願い致します。

第三点は現状の把握と共有

現状を皆で把握をする・共有するということは問題の解決を図って行く上でとても大切なことで基本の基ではないかと思っており、現状課題の解決のためにご一緒に取り組んで頂きたい点が、三つ目のお願いであります。

住民自治協議会の皆様をお願いしたい事は以上の三点であります。今日は男性の方が大勢様お見えですのでこれからは、特に男性の方をお願い致します。

女性が活躍出来るようにするために、男性の皆様方にはよき理解者になり、よき協力者になり、よきサポーターになって頂きたいということをお願い致します。

男女共同参画とは非常に分かりにくく、敬遠されがちなテーマでありますけれども、とても大事なテーマです。これを進めて行くときに何が大事かと言うと「誰もがその人らしく、いきいきと生きていけるか・いけないか」という事だろうと思えます。

その人らしくいきいきと生きて行けない現状があるから、男女共同参画というテーマで私も話をさせていただける機会がめぐって来るわけです。これは解決して行く上でそんなに難しい事でもなく、例えば「誰もがその人らしく、いきいきと生きて行ける」状況にならない人達がいる訳で、その中の一つとして、やっぱり固定観念、固定的な意識、性別役割分担意識というのが、いきいきと生きて行きたくても生きて行けない状況を実現させているかと思われま。

意識を変えようと言うのは、簡単なようでも

のすごく難しいものです。でも意識して「やっぱりこれは、どうなのかな？」というふうに一呼吸おいて考えて頂く、それは皆様方だけでなく、皆様方の周囲におられる方も含めてご理解頂けるようにお力添え頂けると大変ありがたいと思えます。

地域における男女共同参画の視点での事例として、

① 地域における出産・育児

子どもに乳を与える事はママだけであるが、それ以外の事はパパにもできるという意識行動に変える事が大切です。若い人が長野県に移住し、家庭を持ち、安心して子どもを生み育てる事ができる環境を創る事が必要で、特に核家族が増えて孤独に子育てをしている若い夫婦がおられるので、地域の人達全体で子育てを応援する体制が必要になります。

② 地域における会合

女性が主人の代理で会合に出席すると「旦那はどうした」等言われ、また女性が意見を出すと「元気な意見を出すのはどこの嫁だ」等言われると次回から女性は出席しなくなります。やはり皆が集まって楽しい会合であるべきです。

③ 地域における女性役員の選任

女性の方に役員をやっていただくためには家事・育児と社会貢献を要求する事は不可能であるので家庭内での役割分担が必要であります。

④ 学校におけるPTA会長の選任

地域において女性が参画しているか否かのバロメーターとしてPTA会長の選任です。「しかし会長は男だよなー」という意見が、いまだに残っている現実がありますが、やはり会長は学校のこと、子どものことを熟知している方が適任者として会長に選任されるべきだと思えます。

●-----●

約1時間半に亘り、データを基に説得力のある講演で、認識の改革の大切さを学びました。
(人権・男女参画部)

各種団体長会議の開催

各種団体は、古牧地域の活性化を目指してそれぞれの活動を展開し、地域貢献に寄与されている25団体の団体長会議が、6月5日古牧公民館において開催されました。

冒頭、湯沢住民自治協議会長から平成25年度住自協の活動方針として各区、各種団体との連携を密にし、地域住民のニーズ・要望・意見等を取り入れ、住民参加のもとに事業活動を推進させて行く事としているが、それには住民、各種団体、住自協が一体となり協働で実施することにより「より安全・安心・住みやすい古牧」づくりができるものと説明されると共に、各種団体長さんのご理解とご協力をお願いしたいと挨拶があった。

議事においては、25団体からいろいろと工夫をこらした事業計画の発表があり、事業の内容によっては、住自協と密接な連携維持を

必要とするものや団体間による協働が必要とするもの等、例えば「自主防災」「希望の旅」「子育て支援」「子どもを守るパトロール」「ふるさと文化芸能祭・ふれあい教室」「学社連携住民集会」等の事業は一層密接な連携と協働体制が必要とされる事となります。

また、それぞれの団体においては、地域に密着した効果的な事業計画が沢山あり、住自協としては出来るだけ事業支援を行うことに配慮することとしています。

こうした各種団体が行っている事業をさらに地域住民に周知を徹底し、多くの住民参加による事業とするためには、各種団体の広報担当者は、住自協の広報広聴（ぷらネットこまき・インターネットによるホームページ・住民の意見を聞く）を活用して情報を住民に提供していくこととし、その作業の支援は広報部と事務局が行うことにしました。

(事務局)

防犯講習会を開催

安全部では、各区の防犯女性部を中心に、各区長、各区安全部員を対象とした、防犯講習会を、6月23日午後2時より古牧公民館集会室において、開催をしました。この講習会には、長野中央警察署安全係長の田山さん・長水防犯協会の玉城さんをお迎えし「多様化するあらゆる犯罪について」と題し講演していただきました。講演会では、中央警察署管内における刑法犯の話があり、最悪だった平成13年に比べると、昨年は半減以下に抑えられ、少年犯罪も一昨年に比較し4割減と一定の成果がみられ、これもひとえに各地区、地域住民の皆様のたゆみない活動の成果との話がありました。しかしながら、子ども・女性が被害者となる犯罪や、空き巣などの侵入窃盗、高齢者を対象に新たな手口による「もうかります詐欺」や公務員などをかたる「受取型詐欺」などの特殊詐欺が前年に比べ増加しています。講演会では、こうした犯罪に遭わ



ないために、これまで以上に地域住民、関係機関、団体が協力しあい、「安全で安心して暮らせる地域社会」を目指し各種安全活動を積極的に推進してまいりましょうとの内容でした。また交通事故防止として、週末に、自転車・子どもの事故が多いとの現状から、交通ルールをしっかりと守ることが大事との指摘がありました。

なお、長野県防犯協会長から防犯功労賞の表彰を五分一区、松倉富雄氏が受賞されました。

(安全部)

自バラ会と総務部会で 合同研修会を開催

6月12日古牧公民館において、7月21日の参議院通常選挙と10月27日の長野市長選挙及び市議会議員補欠選挙に対し「明るい選挙の推進運動」の啓発活動について、合同研修会が開催されました。

今回の研修は特に①公職選挙法の改正によって7月21日の参議院通常選挙から、インターネットを使用して選挙活動ができるようになりました。

候補者・政党は、ウェブサイト等及び電子メールを利用した選挙運動ができます。

有権者は、ウェブサイト等を利用した選挙運動は可能になるが、電子メールを使用した選挙運動は引き続き禁止されています。

②投票率をアップさせます。前回の衆議院選挙における古牧地区の投票率は、57.14%と長野市32地区中27番目の低投票率となっているので、今回の参議院・市長・市議補選での投票率をアップをさせるため、各種会議等において啓発活動を行っていくこととなりました。
(総務部会)

あいさつ

平成25年度は役員改選と組織改正によって、事業部門の担当副会長、総務・行政部門の担当副会長の職が新設され、それぞれの副会長が就任されましたので、皆様にごあいさつを申し上げます。

小林逸郎 副会長 (事業部門担当)

夕風の涼味うれしく思う今日この頃です。皆さまにおかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。本年度、副会長を仰せつかりました。重責を痛感しておりますが不慣れな職務でありますので、皆様方のご支援とご協力を頂きながら務めて参りますので宜しくお願い致します。

一誰もが住みやすい古牧づくりー

住自協が発足して4年目を迎えますが、この間、防災、福祉、防火、防犯、環境美化、公民館、人権、等多岐に渡っている事業のため幾多の課題、問題がありました。これらの解決や改善を図りながら「安心・安全・住みやすい古牧」づくりのために事業を推進して参りました。今後も引き続き更に事業の推進を図り「住みやすい古牧」づくりに努めていきたいと思っております。また、「安心・安全・住みやすい古牧」づくりの具現化を図るには、古牧13地区の皆様方と各種団体の皆様方と住自協とが、一体となって事業活動を推進することによって、実現できるものと考えています。

一懸案事項の解決に向けてー

元気なまちづくり市民会議の都度要望してきた事項で持越しとなっている主なものは、①公民館が狹隘のため建替え工事及び増設工事、②既設の公民館に身障者や高齢者のためのエレベーターの設置、③支所も住自協も事業運営上必要とする会議室の確保が懸案事項となっているが、市の回答はいつも、制度的・経済的・社会的等を理由に不可能であると終始していますが、区民の皆様方と協力し合って粘り強く実現できるまで頑張りたいと考えていますので、今後ともよろしくお願い致します。

武重博明 副会長 (総務・行政部門担当)

夏至が過ぎ、間もなく夏本番を迎える時節です。皆さま益々ご健勝にお過ごしのことと拝察いたします。

古牧地区住民自治協議会の役員を仰せつかり、早3ヶ月が経過しようとしております。

これまで地域の皆さま、先輩諸氏のご指導、ご協力のもと、無我夢中で活動してまいりましたが職務の重責職務の重大さに身の引締る思いでございます。

これからもご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

さて、今年度の活動方針に基づき役職別に申し上げます。

1. 総務部長として

安心・安全を支える生活環境基盤の整備並びに防災体制の充実を図ることとしたい。

① いつでも災害に対応できるよう、防災組織の充実を図るとともに、情報伝達、避難誘導、救護等の訓練を繰り返し行い、災害時には円滑に対応できる訓練の充実を図ることとしたい。

② 環境基盤の整備としては、行政機関と連携し、河川、道路、公園、福祉施設、用水、病院等の整備に努め、安心・安全・住みやすい古牧にしたいと考えています。

2. 副会長・総務部会長として

先駆者の皆さま方がこれまで着手してきた多くの事業を、各部の皆さんと連携をとりながら引継ぎ、さらにその事業を発展させて行くことが任務であると考えています。

これからも事業方針に基づき一歩ずつ確実に前進させて参りますのでよろしくお願い致します。

25年度公民館部「役員研修会」開催 『地域の一人ひとりが元気になる公民館活動』



6月8日(土)
古牧公民館に於いて、役員研修会が、参加者54名で行われました。

最初に、地域公民館実践発表が行われ、荒屋公民館は、世帯数113戸と小さい地域ですが、小さいからこそできる、まとまりある公民館活動を。北条公民館は、育成部との合同で行う公民館活動を。西尾張部公民館は、若い公民館役員が積極的に参加し、毎年テーマを定めて活動している。今年は「和」との事。どこの地域も地区にあった活動に努力している様子でした。

休憩を挟んで、フリージャーナリストの内山二郎先生を講師に迎え「地域の一人ひとりが元気になる公民館活動」を演題に、講演をして頂きました。

社会教育法第20条「公民館の目的」から

「安心して住みやすい地域づくりの実現を目指すこと、住みよい地域を創ることが公民館の目的である」ことを中心にお話をして下さいました。また、地域の一人ひとりには「居場所」と「出番」を待っている。など、為になるお話がいっぱいありました。

先生は、学生時代ベトナム戦争を体験しに現地に行き、ベトナム人の家に泊まり、食事をしたり行動を共にしたりして、体験を積み重ね「戦争中でも一人ひとりの生活がある」という事に気付いた事が、現在の活動の原点になっているとの事でした。

大学を卒業しマグロ船に乗り、映画助監督、TVディレクターなどを経て、フリージャーナリストになり世界各国を取材、現在は長野を拠点に高齢者問題、地域づくりなど、多種多様な執筆、講演を行っている素晴らしい先生でした。

大変勉強になる研修会となりました。

(公民館部)

世代交流 グラウンドゴルフ大会開催 一絆は強くなった

「ワー、入った。ホールインワンだ!」と子どもたちの声。6月15日(土)古牧小学校の校庭で世代交流の輪を広げ、古牧の絆づくりを目的として第3回グラウンドゴルフ大会が開催されました。

これは健康福祉部、老人クラブ連合会、グラウンドゴルフ協会の共同企画によるもので

総勢177名の参加者がありました。

会場ではクラブの握り方、ボールの打ち方など教わり



ながら16ホールで競技を楽しみ、南部小の小林健二郎君は「おもしろかった、又やりたい」と楽しそうに話していました。

成績結果は以下のとおりでした。

小・中学生の部

- 1位 難波 優飛 (北条)
- 2位 大久保僚祐 (五分一)
- 3位 町田 和音 (平林)

一般男子の部

- 1位 井出 敏 (五分一)
- 2位 高橋徳治郎 (上高田)
- 3位 辻 勝男 (西尾張部)

一般女子の部

- 1位 中村 納子 (川端)
- 2位 神林ヒフ美 (上高田)
- 3位 相澤由美子 (中村)

(福祉健康部)

7月・8月の主な事業実施日のお知らせ 住民の皆様ご参加ください

事業名	実施日	場所	事業内容
アメシロ防除活動	6月～8月	13地区内	近隣との協力体制で防除
男性の料理教室	7月19日	古牧公民館料理教室	健康食づくり・仲間づくり
夏の交通安全運動	7月19日～25日	13地区内	各区で運動を実施する
古牧地区親睦ゴルフ大会	7月24日	長野カントリー	古牧住民のコミを図る
世代交流マレットゴルフ大会	7月27日	長野運動公園	コミにより3世代の絆を図る
中学生球技大会	7月20日	ヤングファラオ	各区公民館を通して周知
社会を明るくする運動	7月27日	古牧公民館 集会室	講演・映画鑑賞・作文発表
防犯パトロール	8月16日	古牧地区内	消防車による巡回
夏季防犯夜間パトロール	8月17日	13地区内	各区において自主的に実施
公民館対抗球技大会	8月18日	3会場	野球・バレーボール・卓球
健康食講習会	8月29日	古牧公民館料理教室	栄養バランスがとれた食づくり

「商品」と見なす流れの一つで、いずれ日本にもと識者は述べていますが何か釈然と
 しません。
 では次のケースはどうでしょう。
 前もって別料金を払い指定券を手に入れ、「混雑した車中の座席をとる」・「演劇・
 スポーツ観戦で良い席を確保する」など。「お金を払って割り込む」こととどう違う
 のでしょう。
 「お金をすべてを」も困ったものだが、その見極めが難しい。
 (吉野 達雄)



これは「順番待ち」という古き良き慣習がお金にとって代わったからで、すべてを
 荷物検査・遊園地での人気乗物・病院での診察順番等々。
 の先頭に行くのがOKというケースが増えているそうです。空港での手
 行列で長く待つのは面倒なものです。そこに割り込む人がいると無
 性に腹立たしく思うのは私だけではないでしょう。
 ところが最近読んだ本に、海外では前もって別にお金を払えば、行列
 の先頭に行くのがOKというケースが増えているそうです。空港での手
 荷物検査・遊園地での人気乗物・病院での診察順番等々。

行列に割り込む

訂正とお詫び

6月発行の第53号の長野市老人クラブ連
 合会長から表彰された、米寿受賞者と役員
 多年勤続功労受賞者の氏名掲載に誤りがあ
 り、大変ご迷惑をお掛け致しました。
 訂正して深くお詫び申し上げます。

米寿受賞者

誤	正
青木清子	青木きよ子

役員多年勤続功労受賞者

誤	正
飯田 芙美子	飽田 芙美子

古牧地区の世帯数と人口

25年6月1日現在

10,686 世帯

26,184 人

(男 12,872人 女 13,312人)

- 発行所 古牧地区住民自治協議会
- 発行者 湯沢 角雄
- 編集 ぷらネットこまき編集委員会
- 印刷 ㈱小池印刷